

望郷おけさ

作詩 鈴木幸雄 / 作曲、編曲 加藤愛樹 / 歌 南 ゆきお

一、おけさ出船に 親父おやじの激げきを

受けて勇んで 東京ぐらし

弱気出すたび あのどら声こゑが

耳みみにきこえて 男おとこが甦いきた

俺おれの故郷ふるさと 佐渡ケ島さどがしまアアア

それが自慢こゝろの ちから筋肉こぶ

二、老いたお袋 手編みのセーター

袖そでを通せば おけさの香かほり

まぶた閉じれば 小節こぶしの利きいた

両津りょうす甚句じんくが 聴きこえてくるよ

朱鷺とさの舞いとぶ 佐渡ケ島さどがしまアアア

忘れられない 母ははごころ

三、波濤なみが絵えになり また詩うたになる

おけさ育そだちの 情なさけけはあつい

長い歳とし月つき 待まちたせただけれど

両手りょうてひろげて 迎むかえに行くよ

心こゝろぬくもる 佐渡ケ島さどがしまアアア

春はるは遅おそまき 祝いわい酒さけ

Ab

Eb7

Ab

Ab

Ab

Fm7

Ab